

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 九州大学

学部・研究科等名 システム生命科学府

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 I 「教育の実施体制」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名「基本的組織の編成」

システム生命科学府は生物・情報科学、生物・工学といったダブルメジャーの素養を持った人材育成を目的として、応用生命科学領域と基礎生命科学領域との相互作用により、生物のシステムの理解からその応用にわたる学際教育を行ってきた。つまり、平成19年度までは、応用生命科学領域に対応している生命情報科学講座、生命工学講座、並びに基礎生命科学領域に対応している、生命医科学講座および分子生命科学講座の合計4講座構成で教育を行ってきた。

しかし近年の環境保全などの社会的要請の高まりに対応するために、既存の生命科学領域に加え、個体・集団を対象とした生物多様性科学の取り込みと、免疫機能などに関する高次生命科学の強化が喫緊となった。

そこで平成20年度に、基礎生命科学領域の充実をはかるとともに、分子から集団、環境に渉る広範な生命科学を包括する磐石なシステム生命科学教育組織を再構築するため、九州大学独自の学府・研究院制度を活用し、理学府生物科学専攻の全教員をシステム生命科学府に取り込む組織改編を行った。

このことにより、免疫機能などの高次生命機能の教育が分子生命科学講座において強化された。さらに環境問題やエネルギー問題の深刻化と相俟って、生命科学領域でその比重が高まりつつある動植物の環境への応答メカニズム、生態学的手法に基づいた生物と環境との相互作用、さらには進化学的視点に基づいた生物多様性維持機構という個体・集団を対象とした教育を担当する生命理学講座の新設を行い、既存の講座との連携から生命現象の包括的な理解を目指す統合生命科学教育体制を確立した。

再編による基礎生命科学教育の充実

